

2. 地区内の交通の利便性と安全性の向上

(1) 幹線道路の円滑な交通と安全性の確保

①地区内における幹線道路の渋滞解消

【現状と課題】

- λ 本地区は、市の東部に位置し、地区の南側で中心市街地と隣接しています。地区内には、南北方向に国道 1 号及び(都)阿倉川西富田線が、東西方向には国道 365 号、(都)赤堀山城線、(都)三重橋垂坂線がそれぞれ通っています。
- λ 地区内の幹線道路は、市の北部・西部と中心部をつなぐ役割を担っているため、朝夕の通勤時間帯を中心に慢性的な渋滞が発生するとともに、それを回避するために地区内の生活道路に流入する車両も少なくありません。
- λ (都)阿倉川西富田線については、(都)赤堀山城線と交差するところで三叉路になり、以南に行く車両はカギの字になった市道を使うこととなります。そのため、交差点が変則の時差式信号になっており、交通渋滞の原因になっていることから、(都)阿倉川西富田線の直進化による南側への延伸が望まれます。
- λ (都)金場新正線、(都)三重橋垂坂線、(都)泊鵜線の 3 つの都市計画道路が未完成の状態になっています。このうち、(都)金場新正線、(都)三重橋垂坂線は「四日市市道路整備計画」(平成 16～25 年度)に位置付けられています。

【今後の方向性】

地域組織・各種団体が取り組むこと	○ 地区内の生活道路に流入する車両を抑制するため、自治会単位で協力要請看板の設置や交通規制の検討を行います。
行政・関係機関に働きかけること	○ 地区内の幹線道路の渋滞を解消するため、現在は変則信号による交差点になっている(都)赤堀山城線と(都)阿倉川西富田線の交差点を改良し、通常の四叉路交差点に整備することを働きかけます。 ○ 都市計画道路について、整備される場合には生活道路の安全性など地元の意向に配慮することを働きかけます。



市道赤堀山城線の交通渋滞



市道赤堀山城線と市道阿倉川西富田線の変則交差点

②幹線道路の安全確保

【現状と課題】

- λ 古くからある国道などの幹線道路は、交通標識などの整備が進んでいるものの、新たに整備された(都)赤堀山城線や(都)阿倉川西富田線では速度制限等の交通標識がないため、スピード超過など安全性を脅かすことが起きていることから、安全性を確保することが課題となっています。
- λ (都)赤堀山城線については、ガードレールの設置や街路灯の設置等による歩行者や自転車の安全確保が求められます。

【今後の方向性】

地区市民一人ひとりが取り組むこと	○ 幹線道路における規制速度を守り、スピードを出しすぎないように留意します。
行政・関係機関に働きかけること	○ 末広橋の前後などスピードが出やすい区間については、スピードの抑制を誘導するための路面表示を実施するよう働きかけます。 ○ 歩行者や自転車の安全を確保するため、(都)赤堀山城線にガードレールや街路灯の設置を働きかけます。



末広橋北側の市道赤堀山城線の坂道

③(都)赤堀山城線の景観形成

【現状と課題】

- λ (都)赤堀山城線については、現在歩道に街路樹がないため、他の幹線道路と比べて見劣りがしないような景観形成が望まれます。

【今後の方向性】

地域組織・各種団体が取り組むこと	○ (都)赤堀山城線の歩道の景観を向上させるため、地区において花と緑いっぱい事業補助金を受け、花壇づくりなどの取り組みを検討します。
行政・関係機関に働きかけること	○ (都)赤堀山城線の歩道に植樹柵の設置を働きかけます。



市道赤堀山城線の景観

④生活道路から幹線道路への円滑な接続

【現状と課題】

- λ 野田から清水町を通る市道と国道 365 号との交差点（野田二丁目東）では、右折車による交通渋滞が発生しやすくなっているため、改善が求められます。
- λ 阿倉川駅南側を通る市道と国道 1 号との交差点（三ツ谷町）では、地区内外からの交通量が集中し、交通渋滞が起きることから、その円滑な接続が課題となっています。

【今後の方向性】

行政・関係機関に
働きかけること

- 国道 365 号と野田二丁目東交差点で接続する市道について、渋滞解消のため市道の拡幅及び右折レーンの設置を働きかけます。
- 国道 1 号と三ツ谷町交差点で接続する市道について、渋滞解消のため右折レーンの設置及び信号現示サイクルの改善を働きかけます。



野田二丁目交差点



三ツ谷町交差点

⑤親しみやすい道路づくり

【現状と課題】

- λ 近年整備された(都)赤堀山城線や(都)阿倉川西富田線に愛称を付けるなどして、地区市民が慣れ親しみ、地区と共存できる道路にしていくことが求められます。

【今後の方向性】

地区市民一人ひとりが取り組むこと	○ 愛称が設定された場合、その愛称を積極的に使い、道路に親しむよう心がけます
地域組織・各種団体が取り組むこと	○ 地区を挙げて愛称の検討や募集・選定に協力していくとともに、決定した愛称の地区内外へのPRを行います。
行政・関係機関に働きかけること	○ 地区市民が道路を身近に感じることができるよう、地区内を通る幹線道路の愛称の設定を働きかけるとともに、設定された愛称の標識を設置することなどを要望します。

（２）生活に密着した道路の快適性と安全性の向上

①地区全体の生活道路の安全確保

【現状と課題】

- λ 古くから市街地が形成されていた本地区では、幹線道路以外の大半の道路が、狭あいな生活道路となっています。これらの生活道路には速度制限などの交通標識がなく、路面の表示なども分かりにくいことから、改善が求められます。
- λ 国道１号の三ツ谷交差点から三重地区までを結ぶ、通称「バス通り」は、狭あいな道路を路線バスが通り、地区の中心的な生活道路としての役割を担っています。しかし、拡幅が進まないことから、長期的な視野に基づく整備のあり方を検討することが課題となっています。
- λ 狭あいな生活道路において、消防車などの緊急車両が入れないところについては、拡幅をするための手法の検討が求められます。

【今後の方向性】

地区市民一人ひとりが取り組むこと	○ バス通りをはじめ、生活道路を通行する際には、歩行者や自転車の安全に配慮し、特に点滅信号などでの譲り合いを心がけます。 ○ 狭あい道路に面した敷地に対する後退（セットバック）について協力していきます。
地域組織・各種団体が取り組むこと	○ 通称「バス通り」のバス停周辺や交通量が多い区間において、水路を暗きょ化するなどして「すれ違い待避ゾーン」を設置するため、地区内での話し合いを進めます。
行政・関係機関に働きかけること	○ 生活道路における安全性を高めるため、地区内の主な道路において速度制限を設定するよう関係機関に働きかけます。 ○ 「すれ違い待避ゾーン」について、地区の合意形成に基づき整備を働きかけます。



東阿倉川二区地内のバス通り

②幹線道路からの流入交通抑制と通学路の安全確保

【現状と課題】

- λ 幹線道路からの通過交通の流入により、生活道路において渋滞が発生したり、交通事故などの危険性が高まったりすることから、流入を防ぐことが求められます。一方、生活道路から幹線道路に対しては、円滑に接続することが望まれます。
- λ 地区内に狭い生活道路が多くあることから、小中学校の登下校など通学路の安全性を向上させることが課題となっています。具体的には、学校周辺の道路の路側帯を塗り分けて、自動車や自転車に注意を促したり、三ツ谷町の近鉄線ガード下における安全を確保したりすることなどが求められます。
- λ 子どもだけでなく高齢者や障がい者が安全に徒歩で移動できるよう、ある程度の幅員の確保や側溝などとの段差の解消が望まれます。
- λ 地区内にいくつかある近鉄名古屋線の踏切について、万古町踏切などは幅員が狭く、通勤・通学の時間帯は自動車の交通量も多いことから、安全確保が求められます。

【今後の方向性】

地区市民一人ひとりが取り組むこと	○ 登下校時に通学路を自動車で通行するときは可能な限り減速するなど安全運転を心がけます。
地域組織・各種団体が取り組むこと	○ 周辺の企業に通勤する車両などが地区内に流入しないよう、定期的にパトロールを行います。 ○ 登下校時の児童・生徒の安全を確保するため、登下校の見守りの活動を継続するとともに、新たな交通危険箇所の把握に努めます。
行政・関係機関に働きかけること	○ 周辺の企業に通勤する車両などが地区内に流入しないよう、関係企業に要望を行います。 ○ 阿倉川駅南の市道におけるガード下について、児童・生徒が安全に登下校できるよう、周辺の道路標識及び横断歩道を設置するとともに、路面の塗り分けによるスクールゾーンの明確化を働きかけます。 ○ 小学校及び地区市民センター周辺の安全を確保するため、道路の路側帯を塗装し、歩道に見立てることで安全を確保できるよう働きかけます。 ○ だれもが安全に地区内を徒歩で移動できるよう、路側帯の確保や側溝との段差解消、歩車道を分離するブロックや点字ブロックの設置などを働きかけます。 ○ 近鉄名古屋線の万古町踏切について、自動車及び通学児童を含む歩行者の安全確保のため、拡幅などの改善を働きかけます。



海蔵小学校東の児童登校時安全横断活動



近鉄阿倉川駅南のガード下市道

③住宅地開発に合わせた生活道路の整備

【現状と課題】

入 松ヶ丘団地において実施された、電柱を片側に寄せる取り組みは、心理的にかなりの広がりを実感できることから、今後、住宅地開発などに合わせて実施することは有効であると考えられます。

【今後の方向性】

地域組織・各種団体が
取り組むこと

- 住宅地が開発される場合には、規模の大小にかかわらず関心を持ち、周辺道路との円滑な接続ができるよう開発事業者等と調整を行います。
- 住宅地開発に対する地元における調整を地区全体としてできるようなくみづくりについて、必要に応じて検討します。



開発地の従前の市道



電柱が片側に設置された松が丘の東沿いの市道

（３）海蔵川の堤防道路における安全性と利便性確保

①堤防道路の安全性向上

【現状と課題】

- λ 本地区は、海蔵川が地区の中央部を東西方向に流れていることから、堤防道路とは生活のさまざまな面で密接に関係しています。
- λ しらさぎ橋北詰から新海蔵橋北詰については、朝夕の通勤車両の交通量が多く、スピードが出ている車両も多いことから、通行規制の導入について検討する必要があります。

【今後の方向性】

地域組織・各種団体が取り組むこと	○ 堤防道路における車両及び歩行者・自転車それぞれの視認性を高めるため、橋及び交差点周辺の草刈りなどを定期的実施します。
行政・関係機関に働きかけること	○ 堤防道路における安全性を高めるため、制限速度を設定するよう関係機関に働きかけるとともに、堤防道路の交差点付近で減速を促す路面表示を施すよう要望します。



自動車が行きかう海蔵川左岸堤防道路

②堤防道路における歩車共存

【現状と課題】

- λ 海蔵川緑地に面した堤防道路については、堤防沿いに居住する地区市民にとって、かなり生活に密着した道路となっている一方で、ウォーキングや犬の散歩などを行っている人も多いことから、安全性と利便性の両立・共存に向けた方針の検討が課題となっています。

【今後の方向性】

地区市民一人ひとりが取り組むこと	○ 堤防道路を自動車で通行する際、見通しが悪いところを中心に歩行者や自転車に十分注意します。 ○ 末広橋の東側は生活道路としての性質が強いため、ウォーキングや犬の散歩などの際は自動車に十分注意します。
行政・関係機関に働きかけること	○ 河川敷の遊歩道整備を働きかけ、可能な範囲において歩車分離を促します。



堤防沿い住宅地の自動車が往来する堤防道路

(4) 駅周辺の交通対策と公共交通の利用促進

①公共交通の利用促進

【現状と課題】

- λ 本地区には、近鉄名古屋線の川原町駅と阿倉川駅があり、地区内にとどまらず三重地区など後背地の市民も多く利用しています。
- λ 市の都市計画マスタープラン（全体構想）等でも公共交通の利用促進を重要な取り組みの一つとしていることから、鉄道及びバス交通を利用しやすい環境づくりを進めることが課題となっています。

【今後の方向性】

地区市民一人ひとりが取り組むこと	○ 一人ひとりが、公共交通機関を利用することを心がけ、路線や本数の維持に努めます。
地域組織・各種団体が取り組むこと	○ 関係者が集う意見交換・情報交換の場に積極的に参画し、公共交通の利用促進を考えます。
行政・関係機関に働きかけること	○ 公共交通の利用促進を市の課題として位置付け、鉄道駅周辺の整備や公共交通のあり方について、交通事業者や地域住民が一堂に会する意見交換及び情報交換の場づくりを働きかけます。

②阿倉川駅周辺の環境整備

【現状と課題】

- λ 阿倉川駅は、かつて貨物を扱っていたこともあり、駅周辺の土地を鉄道事業者が所有しています。現在は、多くが駅の利用者の月極駐車場になっており、それ以外は交番、タクシー乗り場、駐輪場などとして利用されています。
- λ 一方、駅前広場は十分な広さが確保されていないため、徒歩や自転車による駅利用者や送迎車両、通過車両が輻輳するなど、危険な状態となっていることから、駅周辺の交通対策に取り組む必要があります。
- λ 駅の駐輪場は、鉄道利用者と放置自転車がともに増加していることから、一部の自転車が歩道にはみ出て通行の妨げになっています。
- λ 阿倉川駅の駅舎は階段しかないため、車いすの利用者は利用できず、わざわざ霞ヶ浦駅など遠い駅を利用しなければならない状況にあります。

【今後の方向性】

地区市民一人ひとりが 取り組むこと	○ 駅を利用する際は、自動車での送迎や駅周辺の駐停車を可能な限り控え、渋滞の発生を抑制します。 ○ 自転車を利用する場合、所定の駐輪場に止め、それ以外の場所への駐輪や自転車の放置は行わないようにします。
地域組織・各種団体が 取り組むこと	○ 公共交通の利用促進と駅周辺の環境整備に向け、地権者や交通事業者と長期的な視野での話し合いや共同研究を進めます。
行政・関係機関に 働きかけること	○ 駅前広場のロータリーや送迎車両の待機場所などの整備に向け、地権者や市との検討の場づくりを働きかけます。 ○ 駅周辺の環境整備に合わせ、バス停を阿倉川駅に近接させるよう、バス事業者に協力を働きかけます。 ○ 駐輪場の拡張の検討を働きかけます。 ○ 阿倉川駅が、車いすの利用者などだれでも利用できるよう、駅舎バリアフリー化の早期実現を働きかけます。



阿倉川駅周辺



地下通路と階段で結ぶ阿倉川駅プラットフォーム

③川原町駅及び鉄道連続立体交差の整備

【現状と課題】

- λ 現在、川原町駅周辺は連続立体交差の工事を行っており、完了すると橋上駅となり、駅西口にロータリーやエレベーターが整備される予定です。
- λ 今後、阿倉川駅と並ぶ、本地区の玄関口となる鉄道駅として、川原町駅周辺の環境整備が望まれます。

【今後の方向性】

地域組織・各種団体が 取り組むこと	○ 末永・本郷地区近鉄線高架事業連絡協議会において高架下の活用方法について話し合います。 ○ 川原町駅前における環境美化など地区市民で進められる活動に取り組みます。
行政・関係機関に 働きかけること	○ 計画的な工事の推進と関連する環境整備を働きかけます。



近鉄川原町駅付近連続立体交差事業完成予想図



三滝川鉄橋北詰で進む立体交差工事

